

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 看護学研究科 看護学専攻（M）

1. <人材養成像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの妥当性が不明確>
高度な看護職者や研究能力を有する教育者・研究者という人材養成像を掲げているが、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーがそれぞれの人材養成像に共通に対応しているか不明確なため、大学院教育としての教育内容も踏まえて、人材養成像ごとにこれらの対応状況を踏まえたカリキュラム・マップ等を示して、関係性や妥当性を明確に説明するとともに、修了後のキャリアパスも明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 1

2. <専門教育科目の領域設定の考え方が不明確>
専門教育科目の領域として「基盤看護学分野」と「実践看護学分野」を設定しているが、各分野に配置される専門分野も含めて設定の考え方が示されていないため、これらを明確にした上で、領域設定の妥当性を説明すること。また、設置の趣旨等を記載した書類の参考資料13において、看護学部との関連図を示しているが、専門分野が「～特論」と記載されており、領域に係る専門分野を示しているのか科目名を示しているのか曖昧なため、本資料の位置付けを明確に説明するか、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 21

3. <シラバスの記載内容が不適切>
「基盤看護学演習Ⅱ」の授業計画について、2回から30回では「研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催」とあるが、各回の詳細な授業内容が記載されておらず、また、記載されている内容からは修士課程にふさわしい授業内容であるか疑義があるため、各回の具体的な授業内容を記載したうえで、授業内容の妥当性を明確に説明すること。
また、例えば「看護管理学」の成績評価方法について、出席状況のみを評価基準に含めることは適切ではないため、是正すること。なお、他の科目についても同様な網羅的に確認の上、該当する科目については適切に対応すること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 25

4. <過度な教員負担となっていないかが不明確>
本専攻の教員には看護学部と兼任する者や2校地を往来する教員がいることから、過度な教員負担となっていないかの観点から各教員の時間割が示されたが、本時間割には学部における実習科目や卒業研究科目及び研究科の特別研究科目の担当状況は示されていないほか、教授会等の学内会議等の参画状況に支障がないか不明確なため、上記を踏まえた教員の時間割を示したうえで、教員負担の妥当性について明確に説明するか、教員負担の状況を適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 43

5. <設置計画の一層の充実>
教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。（改善事項）・・・・・・・・・・ 52

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <人材養成像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの妥当性が不明確>
高度な看護職者や研究能力を有する教育者・研究者という人材養成像を掲げているが、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーがそれぞれの人材養成像に共通に対応しているか不明確なため、大学院教育としての教育内容も踏まえて、人材養成像ごとにこれらの対応状況を踏まえたカリキュラム・マップ等を示して、関係性や妥当性を明確に説明するとともに、修了後のキャリアパスも明確に説明すること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーがそれぞれの人材養成像に共通に対応しているか不明確であるというご指摘を受け、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにおいては大学院教育として相応しいのかも見直した。新規作成した『資料 9-① 育成する人材像と3ポリシー』、『資料 9-② カリキュラムマップ』及び既提示資料『資料 9-③ 看護学研究科看護学専攻(修士課程)履修モデル』を基に、人材養成像との対応及び大学院教育に相応しいものとなるよう以下のように対応する。

対応目次

1. ディプロマ・ポリシーの見直しと修正
2. ディプロマ・ポリシーと育成する人材の対応
3. カリキュラム・ポリシーの見直しと修正
4. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーと育成する人材との対応
5. 育成する人材とキャリアマップとの対応

1. ディプロマ・ポリシーの見直しと修正

本研究科で養成する人材像は、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者の2つである。

(育成する人材像は、端的な表現に変更した)

これら2つの人材を育成するために、まずは、設置の趣旨に沿ってディプロマ・ポリシーが養成する人材像に対応しているか、また大学院教育に相応しいのかも見直した。その結果、説明不足であるため下表のように補足説明を行った。

ディプロマ・ポリシー	
新	旧
1. <u>専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力</u> 2. <u>多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力</u> 3. <u>看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力</u> 4. <u>看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力</u> 5. <u>高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力</u>	1. <u>看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力</u> 2. <u>看護実践の場で多職種との連携・協働を推進し、看護実践の質向上を牽引する指導的役割を果たせる能力</u> 3. <u>自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力</u> 4. <u>看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力</u> 5. <u>生涯自己研鑽を継続する自己教育力</u>

*新旧が異なっている箇所を下線部で示した

DP1、2、4、5については、それぞれの内容をより大学院教育に相応しいよう、表現の補足説明を行ったが、DP3についても、大学院修士課程のレベルに相当するかを再考し、表現を全面的に改めた。DP3は、旧ディプロマ・ポリシーでは、記述及び伝達能力として記載したが、趣旨としては、問題や課題を解決改善するために、エビデンスに基づくコミュニケーション能力は多職種との連携協働を牽引する、という指導力を発揮するうえで不可欠な能力である、ことが背後にあったのである。しかし、この部分の記載がなかったために本来のねらいが読み取りにくく、説明が不足の記載となった。そのため書き換えて大学院で修得するのにふさわしい表現として改めた。よって、ディプロマ・ポリシーについての変更は、趣旨を変えずに表現のみの記載として変更した。

2. ディプロマ・ポリシーと育成する人材の対応

上記の新ディプロマ・ポリシー（DP）において、各々が本学で養成する人材、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者との対応について、設置の必要性をふまえて次のような関連を確認できた。

DP1：困難や複雑な事例を解決や改善に導くために、専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護実践に活用できる能力が必要である。

DP2：我が国が地域包括ケアシステムに移行している現況において、高齢患者や終末期患者などのケアや退院先などの調整や社会資源を導入しての自宅療養をする場合には、関連する多職種との連携協働を柔軟かつ指導的に牽引し、ケアシステムを開発する高度な実践能力が必要である。

DP3：実践の場における問題解決を多角的に取り組むために、同職種内や他職種との連携において協力を得るために、エビデンスに基づく納得できる説明や演繹的かつ帰納的思考が必要となる。

- DP4：深刻な看護系大学の教員不足への対応は喫緊な課題である。そのために教育能力や研究能力を有する看護学の教育者・研究者が必要である。
- DP5：社会状況の変化に伴い、看護を取り巻く状況も大きく変わり、役割拡大が進展し続けている。そのために高度な看護能力を有する実践者、看護学教育者・研究者による社会的貢献への期待は大きい。

3. カリキュラム・ポリシーの見直しと修正

新ディプロマ・ポリシーを基にカリキュラム・ポリシーについて見直した結果、全面的に表現を書き改めた。それは、カリキュラム・ポリシーの記載に、ディプロマ・ポリシーとの対応について、「DP〇に対応するために」、とディプロマ・ポリシーの内容を省略記載していたことや、カリキュラムを構造的に説明したこと、後続記述の「共通科目」「専門科目」の項でより詳述すべき具体が混在していたため、カリキュラム・ポリシー自体としてディプロマ・ポリシーの対応も分かりにくい記載となっていた。以上の点を改め、ディプロマ・ポリシーとの対応が明確となるよう全面的書き改めた。

【修正版カリキュラム・ポリシー】

- 1) 看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。
- 2) 専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度の知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。
- 3) 多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多元的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探求する。
- 4) 「基盤看護学演習 I-A と I-B」「実践看護学演習 I-A と I-B」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまで深化し、課題解決に取り組む能力を育成する。
- 5) 研究の基礎的知識「看護研究方法論 I と II」、研究論文のクリティーク「基盤看護学演習 II」「実践看護学演習 II」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究 I と II」の科目を置き、研究能力を育成する。
- 6) 修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2つの研究分野と8つの特論科目群を配置する。

4. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーと育成する人材との対応

本学で育成する人材、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者を育成するために、5つのディプロマ・ポリシーを設定したが、修正版カリキュラム・ポリシーとの対応は次の通りである。

指導力を有する高度看護実践者、教育者・研究者の人材を養成するために、5つのディプロマ・ポリシー（以下 DP）と6つのカリキュラムポリシー（以下 CP）を設定したが、それら

対応関係として、DP①の専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力、DP②の多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力の修得には、CP①②で、「特論」科目を編成し、必要な知識を講義科目で学修するものとして置く。CP③は、これらの学修の理解を知識レベルから活用応用するまでのレベルまでに深化するものであり、このことにより、はじめて実践能力として発揮することが可能となる。そのために、カリキュラムでは、「演習」科目を置き、事例分析を通して、理論や概念演繹に活用できるようにし、また、事例を現象から本質を見出すことができる帰納的思考能力を修得するために置く。CP⑤は、研究に特化した講義から研究の取り組みまでの学修を通して研究者に必要な能力を知識から実施にまで深める。⑥多様な背景をもつ学生が修了後さらにキャリアパスを発展させられるよう、2つの分野と8つの特論科目を配置した。

修正版ディプロマ・ポリシー (DP)	修正版カリキュラム・ポリシー (CP)
<p>1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力 (CP 1 と 2 と対応)</p> <p>2. 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力 (CP 3 と対応)</p> <p>3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力 (CP 4 と対応)</p> <p>4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力 (CP 2 と 5 と対応)</p> <p>5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力 (CP 1 ~ 5 と対応)</p>	<p>1. 看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。(DP 1)</p> <p>2. 専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度の知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。(DP 1)</p> <p>3. 多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多面的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「育成看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探求する。(DP2)</p> <p>4. 「基盤看護学演習 I - A と I - B」「実践看護学演習 I - A と I - B」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまで深化し、課題解決に取り組む能力を育成する。(DP 3)</p> <p>5. 研究の基礎的知識「看護研究方法論 I と II」、研究論文のクリティーク「基盤看護学演習 II」「実践看護学演習 II」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究 I と II」の科目を置き、研究能力を育成する。(DP 4)</p> <p>6. 修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2つの研究分野と8つの特論科目群を配置する。(DP 4)</p>

5. 育成する人材と修了後のキャリアパスとの対応

本学で育成する人材、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者を育成するために、本研究科に特化したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーのもとで、修了後のキャリアパスは次のよう対応として想定している。

1. 指導的看護実践者のキャリアパス

- ・危機・悲嘆の状態にある患者・家族、高齢者や終末期にある患者への包括的ケアを実施できる高度の実践能力を有し、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーション、保健師として行政機関で活躍が期待できる。
- ・医療現場や生活の場において、急性期、慢性期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族への高度な看護ケアが実施できる指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーションでの活躍が期待できる。

2. 看護学教育者・研究者のキャリアパス

- ・看護学生に対する臨床実習指導、看護師への教育的役割を果たす看護師として、また、基礎教育及び継続教育を担当する教育者として、医療施設、看護系大学での活躍が期待できる。
- ・対象の健康問題を多角的に捉え、看護課題の解決策を探求することを通じて、看護の研究開発に寄与できる素養を備えた研究者として、看護系大学での活躍が期待できるほか、博士課程へ進学し、教育研究者としての活躍も期待できる。

是正事項として、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーがそれぞれの人材養成像に共通に対応しているか不明確であるというご指摘を受け、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにおいては大学院教育として相応しいのかも見直した。

その結果、上述してきたように、本学で育成する人材、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者を育成するために、設置の趣旨を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを設定し、それに対応するようカリキュラム・ポリシーを設定した。カリキュラムマップで示す通り、専門科目に8つの特論科目を配置したが、これら様々なキャリアを持った学生がそれぞれのキャリアを各自の関心に沿ってさらに高めていくためにそれに合わせて履修科目を選択できるように考慮したためである。そのため修了後は、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者についても、各自のキャリアパスをさらに伸ばしていけるように、それぞれ履修する科目により、多様な活躍が期待できる。

これらの見直しにより、本文中に関連する箇所を下記のように加筆修正を行った。

1. 新ディプロマ・ポリシーは、設置の趣旨等を記載した書類、「1. 設置の趣旨及び必要性 4)(2)教育目標、及びディプロマ・ポリシー」の項を修正記載した。
2. 新カリキュラム・ポリシーは、設置の趣旨等を記載した書類、「4. 教育課程の編成の考え方及び特色 1)カリキュラム・ポリシー」の項を修正記載した。
3. カリキュラム・ポリシーの修正により、設置の趣旨等を記載した書類、「4. 教育課程の編成の考え方及び特色において、全体的に簡潔になるよう修正を行った。
4. 育成する人材像と修了後のキャリアパスの内容が修了後の進路と同じ内容であった方がわかりやすいので、設置の趣旨等を記載した書類、「1. 設置の趣旨及び必要性 4)(3)③育成する人材と修了後の進路」の項を修正記載した。

(『資料9-1 育成する人材像と3ポリシー』、『資料9-2 看護学専攻カリキュラムマップ』、『資料9-3 看護学研究科看護学専攻(修士課程)履修モデル』)

看護学専攻

育成する人材像とディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー

資料9-1

育成する人材像

高度の実践能力を有する指導的実践者
研究能力を有する教育者・研究者

■危機・悲嘆の状態にある患者・家族、高齢者や終末期にある患者への包括的ケアを実施できる高度の実践能力を有し、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーション、保健師として行政機関での活躍が期待できる。

■医療現場や生活の場において、急性期、慢性期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族へのリハビリテーション看護が実践できる、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーションでの活躍が期待できる。

■看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、また、基礎教育および継続教育を担当する教育者として、医療施設や看護系大学での活躍が期待できる。

■子どもと家族の健康課題を多角的に捉え、その家族の発達を支援するための方策を探索することを通じて、看護の研究開発に寄与できる素養を備えた研究者として、看護系大学での活躍が期待できるほか、将来博士課程へ進学し、教育研究者としての活躍も期待できる。

ディプロマポリシー

- DP① 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力
- DP② 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力
- DP③ 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力
- DP④ 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力
- DP⑤ 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力

カリキュラムポリシー

- CP①看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。
- CP②専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度の知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。
- CP③多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多角的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探索する。
- CP④「基礎看護学演習 I-A と I-B」「実践看護学演習 I-A と I-B」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまで深化し、課題解決に取り組み能力を育成する。
- CP⑤研究の基礎的知識「看護研究方法論 I と II」、研究論文のクリティーク「基礎看護学演習 II」「実践看護学演習 II」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究 I と II」の科目を置き、研究能力を育成する。
- CP⑥修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2研究分野8特論科目群を配置する。

アドミッションポリシー

- AP①ホリスティック・ナーシング（全人的回復をめざす看護）
実践に関心と学習意欲のある者
- AP②看護実践能力の向上に関心と学習意欲のある者
- AP③看護教育能力の向上に関心と学習意欲のある者
- AP④看護研究能力の修得に学習意欲のある者
- AP⑤看護学の基礎的知識を有する者

人材育成の目標（三育学院大学大学院）			育成する人材像							
<p>本学大学院は、キリスト教精神を基盤とした建学の理念に則り看護学の深奥を究めるために、学術の理論並びに応用を教授研究し、もって人類の保健医療福祉分野に貢献する人材を育成することを目的とする。（三育学院大学大学院学則より）</p> <p>以上を受けて、三育学院大学大学院看護学研究科看護学専攻では、右記の人材育成を目指す。</p>			<p>1) 指導的看護実践者 実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融和する高度の実践能力を有する指導的看護実践者を育成する。</p> <p>2) 看護学教育者・研究者 各専攻分野の看護学を精深し、臨床経験による実践知をより高度の知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を有する教育者・研究者を育成する。</p>							
科目名	配当年次単位	修了要件 (計30単位以上)	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	ディプロマ・ポリシー (DP: 学位授与方針)		
共通科目	キリスト教人間学	1前 2【必修】	必須として計8単位を含め、10単位 ※さらに「共通科目」「専門科目」の専攻する科目以外の特論から2単位	◎				○	DP① 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力 DP② 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力 DP③ 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力	
	保健医療福祉連携特論	1後 2【必修】		○	◎		○	○		
	看護研究方法論Ⅰ (総論)	1前 2【必修】					◎	○		
	看護研究方法論Ⅱ (量的研究・質的研究)	1後 2【必修】					◎	○		
	看護理論	1・2前 2【選択】		◎		○	○	○		
	看護管理学	1・2後 2【選択】		○	◎		○	○		
	実験的行動分析学特論	1・2後 2【選択】		◎	○			○		
専門科目	基盤看護学分野	スピリチュアルケア特論	1・2前 2【選択】	主として専攻する科目の特論、演習ⅠA、演習ⅠBと演習Ⅱの計10単位 ※さらに「共通科目」「専門科目」の専攻する科目以外の特論から2単位	◎			○	DP④ 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力 DP⑤ 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力	
		看護教育学特論	1・2前 2【選択】		◎		◎	○		
		看護技術特論	1・2前 2【選択】		◎		○	◎		○
		感染看護学特論	1・2前 2【選択】		◎		○	○		○
		基盤看護学演習ⅠA (事例分析)	1前 2【選択】		○	○	◎	○		○
		基盤看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	1後 2【選択】		○	○	◎	○		○
		基盤看護学演習Ⅱ (文献講読)	1通 4【選択】		○		◎	○		○
	実践看護学分野	成育看護学特論	1・2前 2【選択】		◎	○	○	○		○
		成人看護学特論	1・2前 2【選択】		◎	○	○	○		○
		高齢者看護学特論	1・2前 2【選択】		◎	○	○	○		○
		地域看護学特論	1・2前 2【選択】		◎	○	○	○		○
		実践看護学演習ⅠA (事例分析)	1前 2【選択】		○	○	◎	○		○
		実践看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	1後 2【選択】		○	○	◎	○		○
		実践看護学演習Ⅱ (文献講読)	1通 4【選択】		○		◎	○		○
研究科目	特別研究Ⅰ	1通 4【必修】	必修として計8単位	○		○	◎	○		
	特別研究Ⅱ	2通 4【必修】		○		○	◎	○		

◎：DPに関する能力形成に特に関与、○：DPに関する能力形成に関与

2. 指導的看護実践者養成のための履修モデル

実践看護学分野		成人看護学特論					
<履修科目>		成人看護学特論					
科目分野	研究分野	授業科目	単位	授業を行う年次と単位配分			
	必修	選択	1年次	2年次	前期	後期	後期
共通科目	共通科目	キリスト教人間学	2	○			
		保健医療福祉動特論	2		○		
		看護研究方法論Ⅰ(総論)	2		○		
		看護研究方法論Ⅱ(量的研究・質的研究)	2			○	
		看護管理学	2			○	
		看護教育学特論	2			○	
		成人看護学特論	2			○	
		実践看護学演習ⅠA(事例分析)	4			○	
		実践看護学演習ⅠB(フィールドワーク)	4			○	
		実践看護学演習Ⅱ(文献講読)	2			○	
専門科目	基礎看護学	特別研究Ⅰ	4			○	
		特別研究Ⅱ	4			○	
		小計	16			14	
		計	30単位				
科目	研究	特別研究Ⅰ	4			○	
		特別研究Ⅱ	4			○	
小計		16			14		
計		30単位					
修了後の進路	医療現場、福祉施設や生活の場において、急性期、慢性期、回復期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族へのリハビリテーション看護が実践できる、指導的高度看護実践者としての活躍が期待できる。						

1. 指導的看護実践者養成のための履修モデル

高齢看護学分野		スピリチュアルケア特論					
<履修科目>		スピリチュアルケア特論					
科目分野	研究分野	授業科目	単位	授業を行う年次と単位配分			
	必修	選択	1年次	2年次	前期	後期	後期
共通科目	共通科目	キリスト教人間学	2	○			
		保健医療福祉動特論	2		○		
		看護研究方法論Ⅰ(総論)	2		○		
		看護研究方法論Ⅱ(量的研究・質的研究)	2			○	
		看護管理学	2			○	
		スピリチュアルケア特論	2			○	
		高齢看護学演習ⅠA(事例分析)	4			○	
		高齢看護学演習ⅠB(フィールドワーク)	4			○	
		高齢看護学演習Ⅱ(文献講読)	2			○	
		高齢看護学特論	2			○	
専門科目	基礎看護学	特別研究Ⅰ	4			○	
		特別研究Ⅱ	4			○	
		小計	16			14	
		計	30単位				
科目	研究	特別研究Ⅰ	4			○	
		特別研究Ⅱ	4			○	
小計		16			14		
計		30単位					
修了後の進路	危機・悲嘆の状態にある患者・家族、特に高齢者や終末期にある患者への包括的ケアが実践できる人材として、指導的高度看護実践者としての活躍が期待できる。						

3. 教養者・研究者養成のための履修モデル

基礎看護学分野		看護教育学特論						
<p><履修科目></p> <p>共通科目では、必修の4科目に加えて、質の高い看護職者の人材育成を図る「看護管理学」を選択する。</p> <p>専門科目では、専攻する研究分野である「看護教育学特論」で、教育的機能発揮および教育評価のための知識・技術を学ぶ。同時に、「成人看護学特論」を選択し、成人期の発達上の特徴と教育的支援について探求する。基礎看護学演習ⅠA（事例分析）、「基礎看護学演習ⅠB（フィールドワーク）」、「基礎看護学演習Ⅱ（文献講読）」では、成人を対象とした授業展開や教育評価に必要な理論・概念の活用を探求する科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。</p>								
科目分野	研究分野	授業科目	単位		授業を行う年次と単位配分			
			必修	選択	1年次		2年次	
共通科目		キリスト教人間学	2		○			
		保健医療福祉連携特論	2			○		
		看護研究方法論Ⅰ（総論）	2			○		
		看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
		看護管理学	2			○		
		看護教育学特論	2			○		
専門科目	基礎看護学分野	基礎看護学演習ⅠA（事例分析）	2			○		
		基礎看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	2			○		
		基礎看護学演習Ⅱ（文献講読）	4			○		
		成人看護学特論	2			○		
		特別研究Ⅰ	4			○		
科目	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	4				○	○
		小計	16	14				
		計	30単位					
修了後の進路	看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、また、基礎看護および看護教育を担当する教養者としての活躍が期待できる。							

4. 教養者・研究者養成のための履修モデル

実践看護学分野		成人看護学特論						
<p><履修科目></p> <p>共通科目では、必修の4科目に加えて、看護実践研究の基礎となる「看護理論」を選択する。</p> <p>専門科目では、専攻する研究分野である「成人看護学特論」で、子どもと家族の理解のための諸概念や理論について最新の知見に基づき体系的に学習するとともに、「看護教育学特論」を選択し、教育的機能発揮に必要な知識・技術を学ぶ。実践看護学演習ⅠA（事例分析）、「実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）」、「実践看護学演習Ⅱ（文献講読）」では、子どもと家族の健康課題とケアについて実践事例を探索する科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。</p>								
科目分野	研究分野	授業科目	単位		授業を行う年次と単位配分			
			必修	選択	1年次		2年次	
共通科目		キリスト教人間学	2		○			
		保健医療福祉連携特論	2			○		
		看護研究方法論Ⅰ（総論）	2			○		
		看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
		看護理論	2			○		
		看護教育学特論	2			○		
専門科目	実践看護学分野	成人看護学特論	2			○		
		実践看護学演習ⅠA（事例分析）	2			○		
		実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	2			○		
		実践看護学演習Ⅱ（文献講読）	4			○		
		特別研究Ⅰ	4			○		
科目	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	4				○	○
		小計	16	14				
		計	30単位					
修了後の進路	子どもと家族の健康課題を多角的に捉え、子どもと家族の発達を支援するための対策を提案することを通して、看護の専門性に基づき看護実践を担った研究者として、また、基礎看護および看護教育における研究指導者としての活躍が期待できる。							

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (5 ページ～11 ページ)

新	旧
<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>4) 大学院看護学研究科看護学専攻の教育上の理念と目的</p> <p>.....</p> <p>(2) 教育目標</p> <p>研究科においては、上記の教育目的を具現化するために下記の目標を設定した。</p> <p><u>1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力を育成する。</u></p> <p><u>2. 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力を育成する。</u></p> <p><u>3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力を育成する。</u></p> <p><u>4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力を育成する。</u></p> <p><u>5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力を育成する。</u></p> <p>研究科においては、上記の教育目標を具現化するために下記のディプロマ・ポリシーを設定した。</p>	<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>4) 大学院看護学研究科看護学専攻の教育上の理念と目的</p> <p>.....</p> <p>(2) 教育目標</p> <p><u>1. 看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力を育成する。</u></p> <p><u>2. 看護実践の場で多職種との連携・協働を推進し、看護実践の質向上を牽引する指導的役割を果たせる能力を育成する。</u></p> <p><u>3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力を育成する。</u></p> <p><u>4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力を育成する。</u></p> <p><u>5. 生涯自己研鑽を継続する自己教育力を育成する。</u></p> <p>教育目標を達成するために、次のディプロマ・ポリシーの下で教育課程を編成する。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p><u>1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力</u></p> <p><u>2. 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力</u></p>	<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p><u>1. 看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力</u></p> <p><u>2. 看護実践の場で多職種との連携・協働を推進し、看護実践の質向上を牽引する指導的役割を果たせる能力</u></p>

新	旧
<p>3. <u>看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力</u></p> <p>4. <u>看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力</u></p> <p>5. <u>高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力</u></p> <p>(3) 育成する人材と修了後の進路 本学研究科において育成する人材像は以下の通りである。</p> <p>① <u>指導的看護実践者</u></p> <p>.....</p> <p>そのために、治療・療養の場に係る様々な施策・制度は、従来の病院完結型から地域完結型へと急速にシフトしており、保健医療福祉サービスの提供者にとって、<u>地域で暮らす生活者を中心に支える視点が不可欠になっている</u>。地域住民や患者が必要とする医療やケアを切れ目なく、<u>安心・安全・安楽に受けられる要望に応えられるために、高度な状況判断力、調整能力、連携協働することに加え、創造かつ柔軟に問題を改善・解決に導き、研究的視点で実践と研究を融和させ、ケアシステムを開発できる指導的役割を發揮する高度な実践能力が求められている</u>。</p>	<p>3. <u>自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力</u></p> <p>4. <u>看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力</u></p> <p>5. <u>生涯自己研鑽を継続する自己教育力</u></p> <p>(3) 育成する人材と修了後の進路 本学研究科において育成する人材像は以下の通りである。</p> <p>① <u>指導的役割を發揮し、高度実践力を有する看護職者の育成</u></p> <p>.....</p> <p>そのために、治療・療養の場に係る様々な施策・制度は、従来の病院完結型から地域完結型へと急速にシフトしており、保健医療福祉サービスの提供者にとって、<u>地域で暮らすその人を中心に支える視点が不可欠になっている</u>。この変化に対応するために、<u>看護職者は多職種と連携協働し、看護の専門性において、指導的役割を發揮し、問題局面を改善・解決する高度な実践能力が求められるようになっている</u>。</p> <p>平成4年の「<u>看護師等の人材確保の促進に関する法律</u>」の施行等を契機に看護系大学が急激に増加したことで(平成3年度11課程、平成30年度276課程)、<u>大学教員が大幅に不足し、看護系大学教育の質の担保が社会的に問題となっている</u>。また、平成23年3月11日に報告された「<u>大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会(最終報告)</u>」には、「<u>大学院で養成が期待される人材としては、教育者、</u></p>

新	旧
<p>②看護学教育者・研究者 </p> <p>平成4年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」. 学士教育の質の担保が社会的に問題となっている。そのため、看護基礎教育において、専攻する専門性における看護学を精深し、研究能力を有する教育者・研究者を育成することが喫緊な課題である。</p> <p>③修了後の進路</p> <p>本学で育成する人材、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者を育成するために、本研究科に特化したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを設定し、修了後のキャリアパスとの対応は次のことが期待できる。</p> <p>1. 指導的看護実践者</p>	<p>研究者、高度専門職業人、そして、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材の養成が挙げられている。大学院は研究機関であるのみならず、教育機関としての役割も重要であるとされている。</p> <p>②各専攻分野の看護学を精深し、研究能力を有する教育者・研究者の育成</p> <p>平成4年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」. 学士教育の質の担保が社会的に問題となっている。これに対して、平成30年に設立された大学院は175課程で入学定員は2,722名であり、同年における看護系大学は276課程で、入学定員は23,667人であった。修士課程お入学定員は学士課程のそれに比べ11.5%に過ぎない。学部教育でも生涯自己研鑽の重要性を教育目標として掲げているので、大学を卒業した看護職者のリカレント教育の学習機会をより拡大することが必要と考える。さらに、臨床には経験豊かな短期大学卒者、専門学校卒業した看護職がその実践知をより高度の知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を修得することで実践経験豊かな教育者・研究者の基礎的能力を有する看護職者を育成することができる。</p> <p>③ 修了後の進路</p> <p>指導的役割を發揮できる高度実践力を有する看護職者は修了後に次の職場での活躍が期待される。</p> <p>まずは、病院などの実践の場に戻り、ケアとキュアをシムレスに看護サービス提供するために、研究の視点から看護現象から課題を見出し、研究に発展させ、実践の場のケアの質の向上に牽引的な指導役割を發揮する看護</p>

新	旧
<p>・危機・悲嘆の状態にある患者・家族、高齢者や終末期にある患者への包括的ケアを実施できる高度の実践能力を有し、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーション、保健師として行政機関で活躍が期待できる。</p> <p>・医療現場や生活の場において、急性期、慢性期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族への高度な看護ケアが実施できる、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーションでの活躍が期待できる。</p>	<p>職としての活躍が期待できる。また地域完結型の保健医療福祉体制を促進するために、地域や他施設や地域の多職種と連携協働し、地域包括ケアシステムの開拓を研究的に牽引する指導的役割を發揮できる。</p> <p>さらに、高度な専門知識を身に着けていることにより、看護系大学の教員としての活躍が期待できる。そして、将来的には博士後期課程に進学し、さらに教育・研究能力を向上させ、研究者としての活躍につなげることができる。</p>
<p>2. 看護学教育者・研究者</p> <p>・看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、また、基礎教育及び継続教育を担当する教育者として、医療施設、看護系大学での活躍が期待できる。</p> <p>・対象の健康問題を多角的に捉え、看護課題の解決方策を探求することを通じて、看護の研究開発に寄与できる素養を備えた研究者として、看護系大学での活躍が期待できるほか、博士課程へ進学し、教育研究者としての活躍も期待できる。</p>	
<p>『資料 9-③ 看護学研究科看護学専攻（修士課程）履修モデル』で 4 パターンのキャリアパスを示した。（『資料 9-① 育成する人材像と 3 ポリシー』）</p>	
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成</p> <p>本研究科の教育課程は、教育目的・目標を達成するために、<u>先述のディプロマ・ポリシーに基づき編成する。</u></p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成</p> <p>本研究科の教育目的・目標を達成するために、<u>以下のようなディプロマ・ポリシーを設定した。教育課程は、このディプロマ・ポリシーに示す能力を身に着けるために、カリキュラ</u></p>

新	旧
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>1. 看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。</p> <p>2. 専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度の知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。</p> <p>3. 多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多面的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探求する。</p> <p>4. 「基盤看護学演習Ⅰ-AとⅠ-B」「実践看護学演習Ⅰ-AとⅠ-B」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベル</p>	<p>ム・ポリシー（以下、DPと略す）を設定し、編成する。</p> <p>1. 看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力</p> <p>2. 看護実践の場で多職種との連携・協働を推進し、看護実践の質向上を牽引する指導的役割を果たせる能力</p> <p>3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する能力</p> <p>4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力</p> <p>5. 生涯自己研鑽を継続する自己教育力</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>1. 教育課程は、＜共通科目＞、＜専門科目＞、＜研究科目＞」の3つの区分で編成する。</p> <p>2. ＜共通科目＞は、＜専門科目＞を学修するために共通して必要な基礎的知識や専門分野の視野を広げるための科目で編成し、DP1の基盤的能力を獲得するために配置する。</p> <p>3. ＜専門科目＞は、看護学を支える＜基盤看護学分野＞及び＜実践看護学分野＞で編成する＜基盤看護学分野＞は、看護学に通ずる基盤的内容に関連する科目群を配置した。また、＜実践看護学分野＞は、看護学実践の場で展開される活動に関連する科目群を配置する。この分野は、ホリスティック・ナーシングの共通する知識の学修に関連し、DP1の能力獲得を目的としている。</p> <p>4. ＜基盤看護学分野＞には、ホリスティック・ナーシングにも含める「スピリチュアルケア特論」を配置する。また、人材育成に必要な</p>

新	旧
<p>まで深化し、課題解決に取り組む能力を育成する。</p> <p>5. 研究の基礎的知識「看護研究方法論ⅠとⅡ」、研究論文のクリティーク「基盤看護学演習Ⅱ」「実践看護学演習Ⅱ」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究ⅠとⅡ」の科目を置き、研究能力を育成する。</p> <p>6. 修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2つの研究分野と8つの特論科目群を配置する。</p> <p>教育課程の構造は、<共通科目>、<専門科目>、<研究科目>の3つの区分で編成する。</p> <p><共通科目>は、専門科目を学修するために共通して必要な基礎的知識や専門科目の視野を広げるための科目で編成する。<専門科目>は、各実践看護学に共通する基盤的要素に関わる<基盤看護学>及び看護の実践に係る<実践看護学分野>で編成する。</p> <p><基盤看護学分野>には、ホリスティック・ナーシングに含まれる重要な「スピリチュアルケア特論」科目、人材育成に必要な「看護教育学特論」、看護実践の基本的要件をなす「看護技術特論」、近年再び猛威を振るい、その重要性が見直されている「感染看護学特論」の4講義科目を配置する。</p> <p><実践看護学分野>には、各発達段階別に「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」のほか、場の特徴を軸に全発達段階</p>	<p>「看護教育学特論」、看護実践の要件をなす「看護技術特論」を配置し、学生や後進を教育する能力の獲得に関連し、DP 1、4の修得するために配置する。さらに、近年消えなかった感染の問題が形を変えて、再び猛威を振るい、医療福祉施設にいる患者個人に現般的にエンデミックに感染が侵入するだけでなく、広範にわたるパンデミックに感染症が広がるなどで、一般の人にとっても必要な知識となってきたため、実践の各科目に普遍的に必要な感染看護とその防御をなす免疫力向上に関する「感染看護学特論」を配置し、DP 1、2の修得を目的とする。</p> <p>6. <実践看護学分野>には、各発達段階の対象に対する看護の学修として、「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」を配置する。また、場を軸に全発達段階を対象とした「地域看護学特論」を配置する。これらは、DP 1の修得を目的に配置する。「成育看護学特論」は、子どもが健やかに成長発達するための支援だけでなく、核家族が多い家庭で養育する両親に対する教育支援、また、ノーマライゼーションの流れで発達障がいをもつ子どもも社会に溶け込んでいる。しかしそれに特化した子どもと養育者に対する支援は不可欠である。これらがうまくいかない問題として小児虐待などの問題についての学修も重要であるので、配置する。「成人看護学特論」は、特に青年期や壮年期に多発する難病などの慢性疾患、また、慢性的経過をとる生活習慣病を取り上げ、病者に対する理解とその生活スタイルを考慮した支援、さらに急性経過を取った時の支援についての学修も含めた学修で編成する。「高齢者看護学特論」は、看護にとっても高齢社会から避けては通れない課題である。加齢に伴う変化を考慮した疾</p>

新	旧
<p>階を対象とした「地域看護学特論」科目を配置する。</p> <p>演習科目については、特論などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまでに進化するために、<基盤看護学分野>及び<実践看護学分野>のいずれにも3つの演習科目を配置する。</p> <p>「<u>基盤看護学演習Ⅰ-A</u>」「<u>基盤看護学演習Ⅰ-B</u>」「<u>基盤看護学演習Ⅰ-A</u>」「<u>実践看護学演習Ⅰ-B</u>」では、理論や最新の知見を用いて自らの実践事例の分析・評価を行うことにより、看護実践を科学的・論理的・倫理的思考能力を育成するために配置する</p> <p>「<u>基盤看護学演習Ⅱ</u>」「<u>実践看護学演習Ⅱ</u>」では、研究論文のクリティークを通して、研究能力の修得に繋げるために配置する。</p> <p>研究科目には、「<u>特別研究Ⅰ</u>」「<u>特別研究Ⅱ</u>」を各学年に配置し、修士論文を完成させるために配置する。</p>	<p>患の予防や介護予防から、高齢者の健やかな過ごし方についての支援、また、入院した場合のケア、施設における支援そして見取りなどについて学修する。「<u>地域看護学特論</u>」は、地域で過ごす住民を個で支援する在宅看護のほか、地域を集団としてとらえて支援する公衆衛生の立場からの学修で編成する。特に地域包括ケアシステムは、この両方の立場が連携協力することで新たなシステム作りがより有効となることが期待される。</p> <p>7. <基盤看護学分野>及び<実践看護学分野>のいずれにも2つの演習科目を配置する。 「<u>基盤看護学演習Ⅰ-A</u>」「<u>基盤看護学演習Ⅰ-B</u>」「<u>基盤看護学演習Ⅰ-A</u>」「<u>実践看護学演習Ⅰ-B</u>」では、理論を用いて自らの実践事例の分析を行うことにより、看護実践を科学的・論理的に分析する能力を身に着けることができる。実践事例の分析には、看護の対象のほか、それにかかわる多職種も関わることも多く、また、教育的役割や研究課題が見いだされる可能性がある。そのために、これらは、DP1~5の学修がすべて含まれていく。</p> <p>8. 「<u>基盤看護学演習Ⅰ-B</u>」や「<u>実践看護学演習Ⅰ-B</u>」では、各自の研究関心のある論文を講読し、論文のクリティークの学修とともに、研究テーマの焦点化の一助にもなる。さらに、事前学習でまとめてきたプレゼンター</p>

新	旧
<p>2) 共通科目</p> <p><共通科目>は、<u>専攻する看護学の基礎的素養を修得ために7科目を配置し、必須4科目、選択3科目を設定する。</u></p> <p><u>必須科目として、「キリスト教人間学」は、ホリスティック・ナーシングを展開するためにコアとなるキリスト教の考えに基づく人間理解に関わり、スピリチュアルケアの専攻に繋げるための科目であり、「保健医療福祉連携特論」は、これから必要性が増す多職種連携、またさらに進展する地域包括ケアシステムを先導的に実践するうえで、基礎となる知識として社会学的視点から保健医療福祉の問題を学修し、行政レベルの違いによる施策の相違を多元的に理解するために置く。また、「看護研究方法論Ⅰ、Ⅱ」は、修士論文を取り組むための基礎的知識として置き、研究プロセスや看護研究で多用されている量的研究と質的研究方法論について学修する。これらの4科目はホリスティック・ナーシングの視点を涵養し、多職種との連携協力の理解を深め、修士論文を取り組むための基礎知識である。これらはディプロマ・ポリシーで挙げている能力の育成に不可欠であるため必修科目として設定する。</u></p> <p><u>また選択科目については、「看護理論」では、看護実践のエビデンスを演繹的に理解し、実践</u></p>	<p><u>ションのための資料と授業におけるプレゼンテーションの学修を通して、DP1、3、5の能力を修得するために配置する。</u></p> <p><u>9. 修士論文の学修は、「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」を各学年に配置する。学習内容は各自の研究への関心から研究課題を焦点化し、研究のプロセスを経て、修士論文を完成させるところまで学修する。これは研究要素が関連する、DP1、2、3、5の達成に関連する。</u></p> <p>2) 共通科目</p> <p><共通科目>は、<u>看護学における研究能力と看護実践能力の共通基盤となる基礎的素養を修得することで、専門科目や研究科目の学修につなげる科目区分である。</u></p> <p><u><共通科目>は、7科目により編成する。「キリスト教人間学」は、ホリスティック・ナーシングを実践するための対象理解の科目であり(DP1)、「保健医療福祉連携特論」は、これからさらに進展する地域包括ケアシステムを先導的に実践するうえで、行政や施策を理解することは不可欠である(DP2)。「看護研究方法論Ⅰ、Ⅱ」は、修士論文を取り組むための学修である。学修内容は、研究のプロセスや関連する基礎的知識、また、看護研究で多用されている量的研究としての調査研究の研究デザイン、サンプリング法、データ収集・分析方法、質的研究方法論では、看護研究で多用されている研究方法論として内容分析、Grounded Theory Approach、現象学アプローチを学修する(DP1、5)。これらの4科目は、本研究科で養成する人材の基礎的な理論や概念を学修するうえで不可欠であるため、必修科目として設定する(DP1、3)。</u></p> <p><u>また選択科目については、「看護理論」では、看護実践のエビデンスを演繹的に理解し、実践</u></p>

新	旧
<p>に活用するための基礎知識として置く。「看護管理学」は、ケアの人的・物的環境の運用、システムの構築、組織や連携協働関係を築く上でリーダーシップやメンバーシップの理解、人材育成に関連する理解を深めるために置く。「実験的行動分析学特論」は、人と環境（人的・物的）の相互作用を科学的に解明する学問であり、看護への応用として、慢性疾患における療養行動の形成と維持や子どもの問題行動の改善や生活行動の形成に有効であり、看護実践に適用する可能性に繋げるための学修として置く。</p>	<p>における理論を活用することの意味を学修する。「看護管理学」は、ケアの人的・物的環境の整備やシステムの構築などによる効率化を図るための知識の学修である。組織や連携協働関係を築く上でリーダーシップやメンバーシップの各々役割を理解することは重要である。「実験的行動分析学特論」は、人と環境（人的・物的）の相互作用を科学的に解明する学問である。看護職者は、患者やクライアントにとって、人的環境である。時間や頻度のいずれにおいても最も患者の身近にすることで、患者に最も影響を及ぼすことのできる重要な環境である。そのために、患者の望ましい保健行動の形成などにおいてもその「関わり方」に重要な意味がある。科学的に患者との相互作用を理解するうえで重要な学修となる。</p>
<p>3) 専門科目</p>	<p>3) 専門科目</p>
<p>専門科目は、<基盤看護学分野>と<実践看護学分野>の2分野により編成し、各々「特論」科目が4科目、「演習」科目が3科目を配置する。これらの「特論」科目から専攻する科目を選択し、関連する「演習」科目群を合わせて履修することで、各自が専攻したい看護学に沿って選択履修できるように設定する。</p>	<p>専門科目は、<基盤看護学分野>と<実践看護学分野>の2分野を配置し、各々6科目により編成する。それぞれ「特論」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を配置する。</p>
<p><基盤看護学分野>は、各実践看護学に共通して基盤をなす科目群を置く。「スピリチュアルケア特論」は、ホリスティック・ナーシングのコアの一端をなす科目である。本学の看護教育では、古くからキリスト教の教えに則り、ホリスティック・ナーシングをカリキュラムの基本として捉え、看護ケアを身体、心理、社会と同様に、講義と実習にスピリチュアルケアも取り入れてきた。我が国の看護において、スピリチュアルケアは確かにまだ緒についたばかりであるが、本学では看護実践の基盤として捉えている</p>	<p>「特論」科目については、<基盤看護学分野>には、ホリスティック・ナーシングのコアをなす「スピリチュアルケア特論」、教育的能力を学修する「看護教育学特論」、看護実践の基本的要件である「看護技術特論」、さらに近年感染は再び猛威を振るうようになっている現状を踏まえ、感染防御という視点に加え、生体側の防御として免疫力の獲得からもアプローチする「感染看護学特論」を学修する（DP1）。</p>

新	旧
<p>ので、<u>基盤看護学</u>に位置付ける。対象に適する<u>教育的実践</u>を学修する「<u>看護教育学特論</u>」、<u>看護実践の基本的要件である看護技術の開発とその教育</u>を学修する「<u>看護技術特論</u>」、さらに<u>近年感染は再び猛威を振るうようになっている現状を踏まえ、感染防御と生体側の防御として免疫力の獲得についても学修する「感染看護学特論」</u>を置く。</p> <p>＜実践看護学分野＞には、<u>小児の成長発達やその障がいの理解と支援に関する学修として「成育看護学特論」、成人期に罹患する慢性疾患の患者理解や支援、また中途障がい者に対する理解と支援を学修するリハビリテーション看護、さらには急性期看護に携る看護師の卓越性について学修する「成人看護学特論」、高齢者を理解するための理論や概念、施設ケアや認知症ケアの開発などを学修する「高齢者看護学特論」</u>を置く。</p> <p>「<u>演習科目</u>」については、「<u>基盤看護学演習Ⅰ-A、B</u>」「<u>実践看護学演習Ⅰ-A、B</u>」は、<u>特論科目等の講義で学修した知識を事例分析を通して、活用応用し、実践を分析や評価する能力を修得するとともに、自己の課題を見いだすことで、実践のエビデンスを帰納的に学修するために置く。</u></p> <p>「<u>演習Ⅱ</u>」は「<u>基盤看護学演習Ⅱ</u>」「<u>実践看護学演習Ⅱ</u>」の2科目を配置する。<u>学習者が各自の関心に沿って論文を選定し、それをクリティークすることにより、研究論文を批判的に読み、研究内容や方法論について講義などで得た知識への理解を深化し、研究能力の学修科目として置く。</u></p>	<p>＜実践看護学分野＞には、<u>小児の成長発達やその障がいに関わる理解と支援に関する学習として「成育看護学特論」、また、成人の発達段階における慢性期疾患患者理解や支援、さらには、発病後の後遺症による障がいと共存するために必要なリハビリテーションにおける看護、さらには慢性期の急性転化やリハビリテーション看護の急性期看護支援について学修する「成人看護学特論」、高齢者の発達段階における機能低下、認知症ケアの在り方、施設ケアなどを学修する「高齢者看護学特論」</u>を配置する（DP1）。</p> <p>「<u>演習科目</u>」については、<u>＜基盤看護学演習Ⅰ＞＜実践看護学演習Ⅰ＞は、事例分析を通して、実践の分析的評価から自己の課題を見いだすことを目的として配置する。各分野の教員が共同で授業に参加し、多角的に助言をすることにより、学習者の視野を広げ、深化を図る（DP1～5）。</u></p> <p>「<u>演習Ⅱ</u>」については、<u>＜基盤看護学演習Ⅰ＞＜実践看護学演習Ⅰ＞は、学習者が関心ある論文をクリティークすることにより、研究論文を批判的に読み、そこから研究内容を深め、方法論についても学修することを通して、研究テーマの焦点化の一助にもつながることを目的として配置した（DP1～5）。</u></p>

新	旧
<p>4) 研究科目</p> <p>研究科目は「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の2科目を設け、通年科目として各年に履修する。研究プロセスに沿って、テーマの焦点化に始まり、一連の研究ステップを経て、修士論文を作成し、完成へと導くために置く。修士論文を計画的に取り組むよう、主指導教員1名、副指導教員2名の複数指導体制で修士論文の作成プロセスに沿って2年間に分けて計画的に指導する。「特別研究Ⅰ」は研究テーマの焦点化に始まり、研究計画書を作成し、倫理委員会への提出準備までとする。「特別研究Ⅱ」は、研究倫理委員会へ審査申請し、修士論文の完成、発表までとする。</p> <p>(資料7：修士論文作成・審査までのプロセス)</p>	<p>4) 研究科目</p> <p>研究科目では、修士論文への取り組みをとして高度な看護実践能力を引き出し、既存の研究成果の活用では解決しない看護実践上の課題に対する、新たな改善策を探求する看護実践研究に取り組む。したがって、看護実践の質の向上をもたらす研究テーマや研究方法に関する学修をする科目を配置する。</p> <p>特別研究は2年間の学修の集大成ともいえる科目である。関心ある研究分野を選択し、入学後は様々な学修を通して、多面的に関心ある課題をとらえ、修士論文の指導の流れに沿って、個別指導により2年間かけて修士論文を完成するよう配置する。</p> <p>研究論文の取り組みは、研究テーマの焦点化、文献検討、研究方法の選定、研究計画書の作成、研究倫理審査申請書の作成、実施、論文の完成と発表、をすることである。</p> <p>研究論文で取り組むのは1つのテーマであるが、計画的に取り組むようにするために、2年間に分けて取り組むこととする。1年目は、研究計画書の作成までとし、2年目は論文の完成と発表を目標とする。</p> <p>(資料7：修士論文作成・審査までのプロセス)</p>

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

【教育課程等】

2. <専門教育科目の領域設定の考え方が不明確>

専門教育科目の領域として「基盤看護学分野」と「実践看護学分野」を設定しているが、各分野に配置される専門分野も含めて設定の考え方が示されていないため、これらを明確にした上で、領域設定の妥当性を説明すること。

また、設置の趣旨等を記載した書類の参考資料13において、看護学部との関連図を示しているが、専門分野が「～特論」と記載されており、領域に係る専門分野を示しているのか科目名を示しているのか曖昧なため、本資料の位置付けを明確に説明するか、適切に改めること。

(対応)

専門教育科目の分野としての「基盤看護学分野」と「実践看護学分野」において、この2つの分野にはご指摘の“専門分野”という設定は行っていない。しかしながら誤解を与える記載として、p.15 (教員組織の項)の表タイトルが、「専門教育科目の領域と教員組織」となっていたが、正しくは、「専門科目と教員組織」であり、本文でタイトルを修正した。本専攻では、各分野の構成は“専門分野”という括りではなく、各科目(特論、演習)の配置になっているが、その説明が不十分であったため、「基盤看護学分野」と「実践看護学分野」の各分野に配置される科目の設定も含めて設定の考え方について、下記のように加筆修正した。

<基盤看護学分野>は、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行うための基盤的内容として、「スピリチュアルケア特論」「看護教育学特論」「看護技術特論」「感染看護学特論」を配置した。「スピリチュアルケア特論」は、ホリスティック・ナーシングのコアの一端をなす科目である。本学の看護教育では、古くからキリスト教の教えに則り、ホリスティック・ナーシングをカリキュラムの基本として捉え、看護ケアを身体、心理、社会と同様に、講義や実習にスピリチュアルケアも取り入れてきた。我が国の看護において、スピリチュアルケアは確かにまだ緒についたばかりであるが、本学では看護実践の基盤として捉えているので、基盤看護学に位置付ける。

<実践看護学分野>は、看護実践の場で展開される活動に関連し看護の質向を図るための分野として、「成育看護学特論」、「成人看護学特論」、「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」を配置した。

また、参考資料13の学部との関連図では、看護学専攻にある「～特論」が科目名であることの記載がなかったことや、看護学部のところも、領域名と科目名が混在した記載になっていたことから、「～特論」が“専門分野”であるような誤解が生じてしまった。従って、参考資料13では、看護学専攻の「～特論」は科目名であることを明記し、看護学部の方も、科目を領域などの科目区分で括り、それぞれの領域が看護学専攻のどの科目「～特論」に集約されるかを矢印で示した。なお、本学の学部の「看護の発展領域」である「スピリチュアルケア」を看護学専攻では「スピリチュアルケア特論」として基盤看護学分野に設定したのは、本学がスピリチュアルケアをも包含した全人的回復をめざすホリスティック・ナーシングを実践できる看護職の育成を教育目的に掲げ、学部で「スピリチュアルケア」を必修科目として履修させていることか

ら、看護学専攻では基盤となる分野の科目として位置付けたためである。

具体的には、修正した参考資料 13 に矢印で示したように、学部の『アドベンチストの信仰と生活』は看護学専攻の「キリスト教人間学」および「スピリチュアルケア特論」に集約され、学部の『健康と環境』および『地域看護学領域』は看護学専攻の「保健医療福祉連携特論」に集約される。学部の『看護の発展領域』から看護学専攻「スピリチュアルケア特論」、「看護教育学特論」「感染看護学特論」に、『小児看護学領域』から「成育看護学特論」に、『成人看護学領域』から「成人看護学特論」に、『老年看護学領域』から「高齢者看護学特論」に、『精神看護学領域』および『地域看護学領域』から「地域看護学特論」に集約される。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ～11 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成</p> <p>3. <専門科目>は、看護学を支える<基盤看護学分野>及び<実践看護学分野>で編成する。</p> <p><基盤看護学分野>は、各実践看護学に共通して基盤をなす科目群を置く。「スピリチュアルケア特論」は、ホリスティック・ナーシングのコアの一端をなす科目である。本学の看護教育では、古くからキリスト教の教えに則り、ホリスティック・ナーシングをカリキュラムの基本として捉え、看護ケアを身体、心理、社会と同様に、講義や実習にスピリチュアルケアも取り入れてきた。我が国の看護において、スピリチュアルケアは確かにまだ緒についたばかりであるが、本学では看護実践の基盤として捉えているので、<u>基盤看護学に位置付ける。</u></p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成</p> <p>3. <専門科目>は、看護学を支える<基盤看護学分野>及び<実践看護学分野>で編成する。</p> <p><基盤看護学分野>は、看護学に通ずる基盤的内容に関連する科目群を配置した。また、<実践看護学分野>は、看護学実践の場で展開される活動に関連する科目群を配置する。</p>

<p>8. 既設学部との関係</p> <p>研究科は看護学部を基礎としている。なかでも、『アドベンチストの信仰と生活』は看護学専攻の「キリスト教人間学」および「スピリチュアルケア特論」に集約され、学部の『健康と環境』および『地域看護学領域』は看護学専攻の「保健医療福祉連携特論」に集約される。学部の『看護の発展領域』から看護学専攻「スピリチュアルケア特論」、「看護教育学特論」「感染看護学特論」に、『小児看護学領域』から「成育看護学特論」に、『成人看護学領域』から「成人看護学特論」に、『老年看護学領域』から「高齢者看護学特論」に、『精神看護学領域』および『地域看護学領域』から「地域看護学特論」に集約される。</p> <p>(資料13 <u>看護学部と看護学研究科との関連</u>)</p>	<p>8. 既設学部との関係</p> <p>専門分野については、学部の既設の科目を基礎に、研究科ではそれらをさらに発展させた。</p> <p>スピリチュアルケアについては、学部教育では独立した科目として配置している。しかし、実習は成人看護学方法論の一部として編成している。現在カリキュラム改正の作業を行っているが、本学にとっては建学の精神において重要な教育内容であり、改正後のカリキュラムでは、独立した科目と実習を配置する方向で検討している。</p> <p>看護教育学、看護技術、感染看護学については、学部教育では基礎看護学概論で学んでいる。しかし、今回新設する看護学研究科では、教育者を育成することや社会的ニーズの高い領域であるため、研究科では独立した科目で学べるように編成した。</p> <p>実践看護学分野については、発達に沿った各段階の対象に対する看護を編成したが、少子高齢社会であること、社会の生産的担い手である成人の健康を守ることは看護においても重要であるために専門科目として編成した。</p> <p>さらに、今後はいっそうノーマライゼーションの考えが進み、医療や福祉施設から地域で過ごす方向へシフトするので、地域看護学について新たな取り組みが必要になるため、科目として編成した。(資料13 <u>既設学部との関連</u>)</p>
--	--

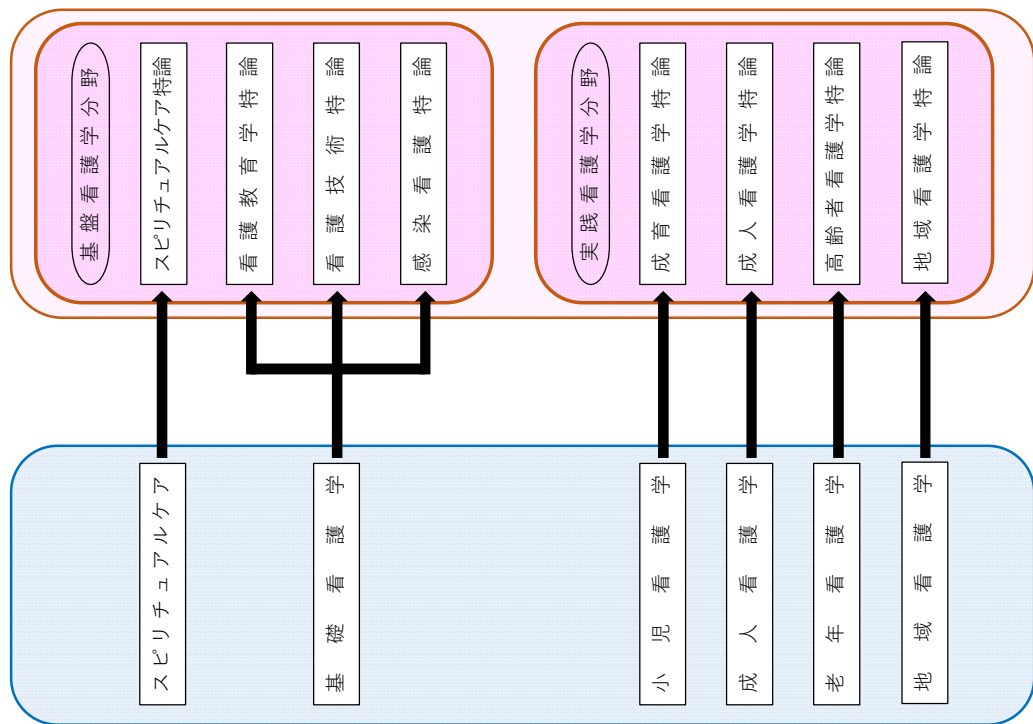
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料13「看護学部と看護学研究科の関連図」添付の表1「(新旧対照表) (旧) 看護学部との関連図 (新) 看護学部と看護学研究科との関連図」のとおり。

旧

資料13

看護学部との関連図

看護学研究科看護学専

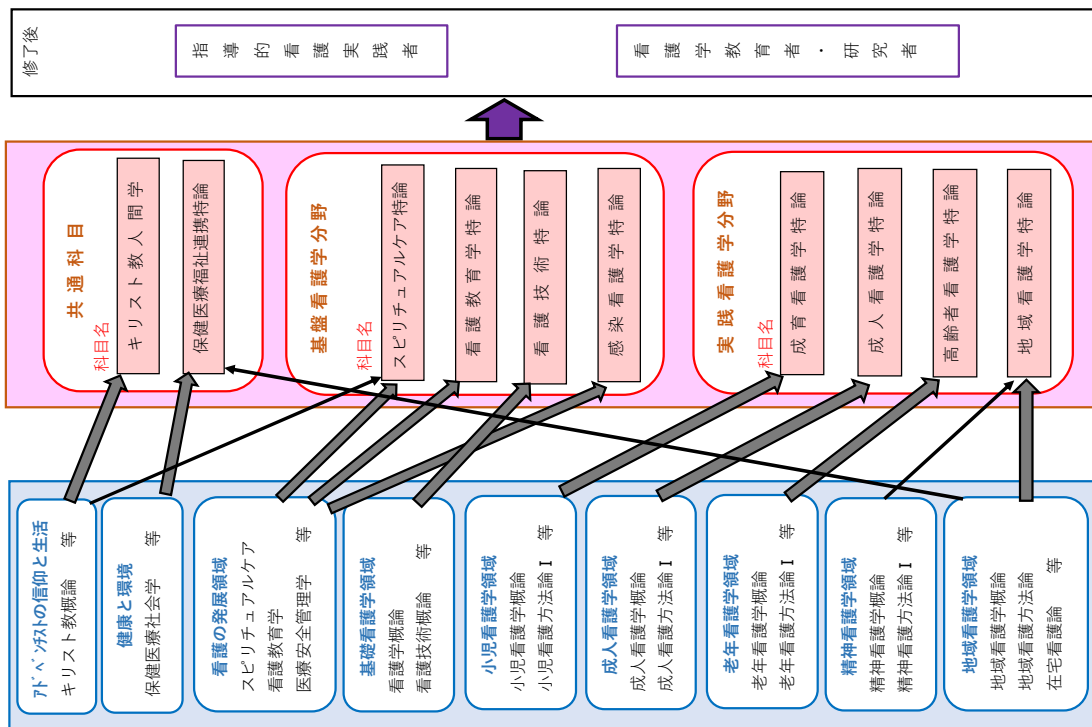


新

資料13

看護学部と看護学研究科との関連図

看護学研究科看護学専攻



↑: 主の関連
→: 従の関連

【教育課程等】

3. <シラバスの記載内容が不適切>

「基盤看護学演習Ⅱ」の授業計画について、2回から30回では「研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催」とあるが、各回の詳細な授業内容が記載されておらず、また、記載されている内容からは修士課程にふさわしい授業内容であるか疑義があるため、各回の具体的な授業内容を記載したうえで、授業内容の妥当性を明確に説明すること。

また、例えば「看護管理学」の成績評価方法について、出席状況のみを評価基準に含めることは適切ではないため、是正すること。なお、他の科目についても同様な網羅的に確認の上、該当する科目については適切に対応すること。

(対応)

「基盤看護学演習Ⅱ」及び「実践看護学演習Ⅱ」に授業計画については、各回の詳細な授業内容が記載されておらず、また、記載されている内容が修士課程にふさわしい授業内容であるかのご指摘を頂いたことから、修士課程に相当する授業内容になるように、かつその授業内容が具体的に記載するように修正する。具体的には、この2科目は文献講読であるが、まずは、適切な文献を系統的に検索できることが修士課程では求められるため、2回から12回までを、系統的検索の理解や実施として、文献検索の専門書を参考に授業を行い、各自の関心のあるテーマの文献検索として、共通科目の看護研究方法論Ⅱで学修した、研究デザインについての講義内容も含めて授業を計画する。このような文献検索の授業内容と連動して、科目目標1、「関心のある文献を検索し入手できる」を「関心のある文献を系統的に検索し入手できる」に修正し、参考文献に、文献検索の専門書「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」を追加する。13回以降は、系統的検索方法を用いて、看護研究方法論Ⅰで学修した研究論文クリティークの視点で、それぞれの研究デザインごとに論文クリティークの実施として数回に分けて実施するなど、授業内容が大学院レベルに妥当な内容・方法になるように修正する。このように授業内容を具体的に記載する。以下に、(新旧対照表)シラバス「基盤看護学演習Ⅱ」及び「実践看護学演習Ⅱ」を示す。

成績評価方法については、ご指摘頂いたような、出席状況のみを評価基準に含めたような記載は「看護管理学」のみであった。その他の科目は、授業の参加状況とプレゼンテーション・ディスカッションの内容との組み合わせで○%という評価で、出席という文言や、出席状況のみで評価するような科目は見られなかった。ただし、『キリスト教人間学』では、参加度20%という記載になっており、参加＝出席のみに受け取られかねないことから、「参加度20%」を「授業態度およびディスカッション20%」に修正する。

(新旧対照表)シラバス(授業計画)(41～48ページ、73～80ページ)

添付の表2「(新旧対照表)シラバス「基盤看護学演習Ⅱ」・「実践看護学演習Ⅱ」」のとおり。

基礎看護学演習Ⅱ（文献講読）【スピリチュアルケア】 科目コード

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	本郷久美子
1	<p>オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義</p> <p><論文講読の内容及方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 <p><講読対象論文></p> <p>学生が選定した文献、スピリチュアルケアに関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。</p>	
2-4	<p>文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題および構成的検索の実施</p>	
5-12	<p>文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。</p>	
13-24	<p>看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティックの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティック</p> <p>(1)量的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)</p>	
25-36	<p>(2)質的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究</p>	
37-44	<p>(3)事例研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際</p>	
45-52	<p>(4)介入研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際</p>	
53-59	<p>学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)</p>	
60	<p>まとめ</p>	

科目名 (科目コード)	基礎看護学演習Ⅱ (文献講読) 【スピリチュアルケア】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎本郷久美子
単位数	4 単位	1 年次	開講時期 通年
時間数	120 時間	授業回数 60 回	選択必修 選択
概要	スピリチュアルケアに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容及方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 研究論文をクリティックできる。 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 		
ディプロマリンクとの関連	<p>本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナースングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組み能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。</p>		
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ（総論）を復習して参加する。		
テキスト・参考文献	<p>【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。</p> <p>【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿府院図書協議会、2013</p> <p>山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。</p>		
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。		
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。		
教員連絡先 471571-	本郷久美子： hongo@saniku.ac.jp		

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	本郷久美子
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義	
2-30	研究論文をクリティクするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、スピリチュアルケアに関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)	
31-59		
60	まとめ	

科目名 (科目コード)	基礎看護学演習Ⅱ (文献講読) 【スピリチュアルケア】		担当教員 (◎：単位認定者)		◎本郷久美子	
	4単位	開講学年	1年次	開講時期	通年	選択
単位数	120時間	授業回数	60回	選択必修		
概要	スピリチュアルケアに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 研究論文をクリティクできる。 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
ディプロマ・ポイントとの関連	本科目は以下に該当する。1.看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3.自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4.看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組み基礎的能力。5.看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティク、日本看護協会出版会、2014。					
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・メールアドレス	本郷久美子：hong@san.iku.ac.jp					

基礎看護学演習Ⅱ（文献講読）【看護教育学】 科目コード

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			鈴木 美和
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経緯に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、看護教育学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。		
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題的および構成的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティックの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティック (1) 量的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める) (2) 質的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
25-36	(3) 事例研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
37-44	(4) 介入研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
45-52	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
53-59	まとめ		
60			

科目名 (科目コード)	基礎看護学演習Ⅱ (文献講読) 【看護教育学】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎鈴木 美和	
単位数	4単位 <th>開講学年</th> <td>1年次 <th>通年</th> </td>	開講学年	1年次 <th>通年</th>	通年
時間数	120時間	授業回数	60回	選択必修
概要	成人を対象とした看護教育学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティックできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・論理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組み能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	【テキスト】パーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。			
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先・オフィスアワー	鈴木 美和：(就任後の本学のメールアドレス)			

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			鈴木 美和
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義		
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。		
31-59	＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、看護教育学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	基盤看護学演習Ⅱ (文献講読) 【看護教育学】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎鈴木 美和	
単位数	4単位	開講学年	1年次	通年
時間数	120時間	授業回数	60回	選択 選択必修 選択
概要	成人を対象とした看護教育学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 研究論文をクリティークできる。 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 			
ディプロマポリシーとの関連	本科目は以下に該当する。1. 看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組み基礎的能力。5. 看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	【テキスト】 バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版，エルゼビア・ジャパン，2017。 【参考文献】 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014。			
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先・オフィスアワー	鈴木 美和：(就任後の本学のメールアドレス)			

基盤看護学演習Ⅱ（文献講読）【看護技術】 科目コード

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			後藤 佳子 村上 寛
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、看護技術に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。		
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題的および構成的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティックの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティック (1) 量的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)		
25-36	(2) 質的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
37-44	(3) 事例研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
45-52	(4) 介入研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
53-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	基盤看護学演習Ⅱ (文献講読) 【看護技術】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎ 後藤 佳子 村上 寛
単位数	4 単位	1 年次	開講時期 選択必修
時間数	120 時間	授業回数	60 回 選択
概要	看護技術や看護技術教育に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。		
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティックできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。		
ディプロマリ-との関連	本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取組み能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。		
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ（総論）を復習して参加する。		
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グロブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書室協議会、2013 山川みややえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。		
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。		
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。		
教員連絡先・オフィスワ-	後藤 佳子：ygoto@saniku.ac.jp		

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	後藤 佳子 村上 寛
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義	
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担当し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、看護技術に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)	
31-59		
60	まとめ	

科目名 (科目コード)	基礎看護学演習Ⅱ (文献講読) 【看護技術】		担当教員 (◎：単位認定者)		後藤 佳子 村上 寛	
	4単位	開講学年	1年次	開講時期	通年	選択
単位数	120時間	授業回数	60回	選択必修		
概要	看護技術や看護技術教育に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
ディプロマポイントとの関連	本科目は以下に該当する。1.看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3.自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4.看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組み基礎的能力。5.看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	<p>【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。</p> <p>【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。</p>					
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・メールアドレス	後藤 佳子：ygot@samiku.ac.jp					

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、感染看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。	齋藤 ゆみ	
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題的および構成的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティックの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティック (1)量的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)		
25-36	(2)質的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
37-44	(3)事例研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
45-52	(4)介入研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
53-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	基礎看護学演習Ⅱ (文献講読) 【感染看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)		◎ 齋藤 ゆみ	
	4単位 120時間	開講学年 授業回数	1年次 60回	開講時期 選択必修	通年 選択	
概要	感染看護や免疫力を高めることに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティックできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。					
ディプロマポリシーとの関連	本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナースィングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組み能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グロブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書館協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。					
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・ Eメール	齋藤 ゆみ：(就任後の本学のメールアドレス)					

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			齋藤 ゆみ
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義		
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書 2、3 冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 <論文講読の内容と方法> 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 <講読対象論文> 学生が選定した文献、感染看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 <その他> 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3 回程度)		
31-59			
60	まとめ		

基礎看護学演習 II (文献講読) 【感染看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)	◎ 齋藤 ゆみ	
科目名 (科目コード)	4 単位	1 年次	開講時期	通年
単位数	120 時間	開講学年	選択必修	選択
時間数	60 回	授業回数	選択必修	選択
概要	感染看護や免疫力を高めることに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 			
ディプロマセッションとの関連	本科目は以下に該当する。1. 看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力。5. 看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論 I (総論) を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第 2 版、エルゼビア・ジャババ、2017。 【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。			
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先・アドバイザー	齋藤 ゆみ：(就任後の本学のメールアドレス)			

実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【成育看護学】 科目コード

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、成育看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。	廣瀬 幸美 松崎 敦子	
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題的および構造的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティークの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティーク (1)量的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める) (2)質的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
25-36	(3)事例研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際 (4)介入研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際		
37-44	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
45-52	まとめ		
53-59			
60			

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【成育看護学】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎ 廣瀬 幸美 松崎 敦子
単位数	4単位	開講学年	1年次
時間数	120時間	授業回数	60回
概要	子どもと家族を対象とした成育看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。	開講時期	通年
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。	選択必修	選択
ディプロマシ との関連	本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナース ングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の 実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組み能力。 4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看 護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。		
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。		
テキスト・ 参考文献	【テキスト】バーンズ&グロブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エル ゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近 畿病院図書室協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。		
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。		
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料 (40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標 の到達状況と照合して評価する。		
教員連絡先・ オフィスアワー	廣瀬 幸美：hirosey@saniku.ac.jp		

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義	廣瀬 幸美 松崎 敦子
2-30	研究論文をクリティックするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。	
31-59	＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、成育看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)	
60	まとめ	

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【成育看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)	
	4単位	開講学年	1年次	◎ 廣瀬 幸美 松崎 敦子
単位数	120時間	授業回数	60回	開講時期 選択必修
時間数				選択
概要	子どもと家族を対象とした成育看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティックできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 			
教材・レポート等の フィードバック	<p>本科目は以下に該当する。1.看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3.自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。</p> <p>4.看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力。5.看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。</p>			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	<p>【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャババ、2017。</p> <p>【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。</p>			
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先・ オフィスアワー	廣瀬 幸美：hirosey@saniku.ac.jp			

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検査・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、成人看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。	鈴木 純恵 奥宮 暁子 今野 玲子	
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題のおよび構造的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用論文、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティークの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティーク (1) 量的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)		
25-36	(2) 質的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
37-44	(3) 事例研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際		
45-52	(4) 介入研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際		
53-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【成人看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)		◎ 鈴木 純恵 奥宮 暁子 今野 玲子	
	4 単位	開講学年	1 年次	開講時期	通年	選択
時間数	120 時間	授業回数	60 回	選択必修		
概要	成人と家族を対象とした成人看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含めること) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
ディプロマ・リンクとの関連	<p>本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナージングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組み能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。</p>					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	<p>【テキスト】バーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書室協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。</p>					
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・ メールアドレス	鈴木 純恵：suzuki.s.sumie@saniku.ac.jp					

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的、意義	鈴木 純恵 奥宮 暁子 今野 玲子
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。	
31-59	＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、成人看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)	
60	まとめ	

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【成人看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)		◎ 鈴木 純恵 奥宮 暁子 今野 玲子	
	4単位	開講学年	1年次	開講時期	通年	選択
単位数	120時間	授業回数	60回	選択必修		
時間数						
概要	成人と家族を対象とした成人看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
ディプロマ・ローとの関連	本科目以下に該当する。1. 看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組み基礎的能力。5. 看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ（総論）を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	【テキスト】 バーンズ&グロブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版，エルゼビア・ジャパン，2017. 【参考文献】 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.					
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・ オファイス	鈴木 純恵：suzukis.sumie@saniku.ac.jp					

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経緯に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、高齢者看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。	小川 妙子 市川 光代	
2-4	文献の系統的検索(1) ： 主題検索の理解、主題のおよび構造的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ： 各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティークの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティーク (1)量的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)		
25-36	(2)質的研究論文のクリティーク・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
37-44	(3)事例研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際		
45-52	(4)介入研究論文のクリティーク 研究論文の検索、クリティークの実際		
53-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【高齢者看護学】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎ 小川 妙子 市川 光代	
単位数	4単位	1年次	開講時期	通年
時間数	120時間	授業回数	60回	選択 選択必修
概要	高齢者とその家族を対象とした高齢者看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含めること) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。			
ディプロマリシ との関連	本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの観点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力。 4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	【テキスト】 パーンズ&グループ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】 諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。			
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先 メールアドレス	小川 妙子：(就任後の本学のメールアドレス)			

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義		小川 妙子 市川 光代
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。		
31-59	＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、高齢者看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。 ＜その他＞ 学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【高齢者看護学】		担当教員 (◎：単位認定者)		小川 妙子 市川 光代	
	4 単位	開講学年	1 年次	開講時期	通年	選 択
単位数	120 時間	授業回数	60 回	選択必修		
時間数						
概要	高齢者とその家族を対象とした高齢者看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションができる。 3. 研究論文をクリティークできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 					
ディプロマポイントとの関連	本科目は以下に該当する。1.看護の対象(個人、家族、集団、地域)に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3.自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4.看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組む基礎的能力。5.看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。					
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ(総論)を復習して参加する。					
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グローブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014。					
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。					
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。					
教員連絡先・Eメール	小川 妙子：(就任後の本学のメールアドレス)					

授業計画および授業内容		学修内容・学修方法	担当
回			丸山美知子 松本 浩幸
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義 ＜論文講読の内容と方法＞ 1. 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 2. 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 3. 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 ＜講読対象論文＞ 学生が選定した文献、地域看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。		
2-4	文献の系統的検索(1) ：主題検索の理解、主題のおよび構成的検索の実施		
5-12	文献の系統的検索(2) ：各自の関心のあるテーマについて文献検索 引用調査、書誌データベースの検索、文献の入手整理 看護研究方法論Ⅱで学修した、量的研究・質的研究の研究論文、海外文献を含める。		
13-24	看護研究方法論Ⅰで学修した、研究論文のクリティックの視点を基に、各自が入手した論文を講読、クリティック (1) 量的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 郵送調査、横断研究、(多変量解析を用いた文献も含める)		
25-36	(2) 質的研究論文のクリティック・プレゼンテーション 内容分析、Grounded Theory Approach、質的記述的研究		
37-44	(3) 事例研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
45-52	(4) 介入研究論文のクリティック 研究論文の検索、クリティックの実際		
53-59	学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(学会については2、3回程度)		
60	まとめ		

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【地域看護学】	担当教員 (◎：単位認定者)	◎ 丸山美知子 松本 浩幸
単位数	4 単位	開講学年	1 年次
時間数	120 時間	授業回数	60 回
概要	地域の住民を対象とする地域看護学（公衆衛生学と在宅看護学）に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。	開講時期	通年
科目目標	1. 関心ある文献を系統的に検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 2. 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 3. 研究論文をクリティックできる。 4. 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。	選択必修	選択
ディプロマリンクとの関連	本科目は以下に該当する。1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナースングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力。3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力。4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力。5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力。		
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ（総論）を復習して参加する。		
テキスト・参考文献	【テキスト】バーンズ&グロブ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版、エルゼビア・ジャパン、2017。 【参考文献】諏訪敏行：看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説、近畿病院図書室協議会、2013 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティック、日本看護協会出版会、2014。		
試験・レポート等のフィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。		
成績評価方法および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。		
教員連絡先・Eメール	丸山美知子:maruyama@saniku.ac.jp		

授業計画および授業内容		担当
回	学修内容・学修方法	
1	オリエンテーション、授業の概要と進め方 文献講読の目的・意義	丸山美知子 浦橋久美子 松本 浩幸
2-30	研究論文をクリティークするために必要な知識を習得する目的で、研究や論文に関する成書2、3冊を題材に、院生が主体的に抄読会を開催し、各章ごとに分担し要約・発表し討論を深める。	
31-59	<p><論文講読の内容と方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 発表者の関心や経験に沿って、その対象の看護に関連する研究論文を検索・入手し、プレゼンテーション、討論を行う。 発表の前週までに講読文献を授業参加者全員に配布する。 発表者は、授業日にプレゼンテーションし、その後参加者全員とディスカッションを行い、研究への理解を深める。 <p><講読対象論文></p> <p>学生が選定した文献、地域看護学に関する研究論文、その他、授業の際に、最新の論文などを含めた文献リストを提示する。</p> <p><その他></p> <p>学会、研究会、勉強会へ計画的に参加する。(2、3回程度)</p>	
60	まとめ	

科目名 (科目コード)	実践看護学演習Ⅱ (文献講読) 【地域看護学】		◎ 丸山美知子 浦橋久美子 松本 浩幸	
	4単位 120時間	開講学年 授業回数	1年次 60回	開講時期 選択必修 通年 選択
概要	地域の住民を対象とする地域看護学（公衆衛生学と在宅看護学）に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 関心ある文献を検索し、入手できる。(海外文献を必ず含むこと) 文献を構造的に読解し、プレゼンテーションできる。 研究論文をクリティークできる。 研究論文の構成を理解し、書き方を理解する。 			
ディプロマ・ポイントとの関連	本科目は以下に該当する。1. 看護の対象（個人、家族、集団、地域）に対して、看護実践に関連する理論と最新の知見を論理的・倫理的に活用し、ホリスティックな視点で看護実践を行う能力。3. 自らの考えを論理的に記述し、口頭で伝達する力。4. 看護学の発展に寄与する教育・研究に取り組み基礎的能力。5. 看護専門職の役割を自覚し、生涯自己研鑽を継続する自己教育力。			
準備学習	テキスト、参考文献を予習して参加する。 研究方法論Ⅰ（総論）を復習して参加する。			
テキスト・参考文献	<p>【テキスト】バーンズ&グロープ：看護研究入門-実施・評価・活用-第2版，エルゼビア・ジャパン，2017.</p> <p>【参考文献】山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.</p>			
試験・レポート等の フィードバック	提出されたレポートは必要に応じてコメントする。			
成績評価方法 および評価基準	授業態度およびディスカッション(20%)、プレゼンテーションおよび提示資料(40%)、レポート(40%)。プレゼンテーションやレポートの内容について科目目標の到達状況と照合して評価する。			
教員連絡先・ オフィス	丸山美知子:maruyama@saniiku.ac.jp			

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (3 ページ、13 ページ)

新	旧
キリスト教人間学 成績評価方法および評価基準 <u>授業態度およびディスカッション 20%</u>	キリスト教人間学 成績評価方法および評価基準 <u>参加度 20%</u>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (13 ページ)

新	旧
看護管理学 成績評価方法および評価基準 <u>授業参加状況および課題の取組みと発表状況 (60%)、課題・レポート (40%) とし、到達目標の達成度に照らして評価する。</u>	看護管理学 成績評価方法および評価基準 <u>①授業出席・参加状況 (30%)、②課題の取組みと発表状況 (30%)、③課題・レポート (40%)</u>

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

【教員組織等】

4. <過度な教員負担となっていないかが不明確>

本専攻の教員には看護学部と兼任する者や 2 校地を往来する教員がいることから、過度な教員負担となっていないかの観点から各教員の時間割が示されたが、本時間割には学部における実習科目や卒業研究科目及び研究科の特別研究科目の担当状況は示されていないほか、教授会等の学内会議等の参画状況に支障がないか不明確なため、上記を踏まえた教員の時間割を示したうえで、教員負担の妥当性について明確に説明するか、教員負担の状況を適切に改めること。

(対応)

看護学部と兼任する者や 2 校地を往来する教員がいるため、過度な教員負担となっていないかの観点から各教員の時間割を資料 10 に示したが、ご指摘のように、学部の実習、卒業研究、研究科の特別研究の科目名のみの記載で、これらの担当状況は示されておらず、教授会等の学内会議等の参画状況についても説明がなく、これらに支障がないか不明確であった。資料 10 に示した時間割には、学部と大学院の研究科目の単位数を明記し、学部における実習科目や卒業研究科目及び研究科の特別研究科目の担当状況については、それぞれの教員が 2 校地でどのような科目をどのような教員指導体制で実施している（する）のかを加筆する。また、負担の程度を客観的に示すデータとして、各授業について、全体の回数のうち何回を担当するかの加筆も行う。なお、2 校地の担当する当初教員 8 名のうち、1 名は就任を辞退したため、2 校地で教育を行う教員ではなくなっていたことから、この 1 名については時間割の作成は行わない。

本学は、学部 1 年と 2 年の前期までは大多喜キャンパス（千葉県夷隅郡大多喜町）で寮生活のもとで授業を受け、2 年後期から 4 年前期までが東京校舎で授業・実習が行われている。4 年後期は希望者のみが大多喜キャンパスに戻るが、授業としては卒業研究が主な必修科目となる。そのため、1 年と 2 年前期の授業を担当する教員の移動の負担軽減のため、木曜日と金曜日に大多喜キャンパスで授業を集中させている。実習は地域看護学以外は東京校舎の近隣の施設で実施するため、看護の教員は大部分が東京校舎中心である。大学院は全ての科目を東京校舎で行うため、看護の教員は移動の負担を考慮し、木曜日と金曜日には授業を入れていない。看護系ではない共通科目担当の教員 1 名（7 篠原清夫）は、大多喜キャンパスで多くの科目を担当し、大学院では演習科目を担当しないことから、2 校地の移動を最小限にする配慮として、後期の木曜日と金曜日に授業科目を入れていない。卒業研究や大学院の研究指導では、学部では学生が 2 校地に分かれるため、適宜、スカイプやメール等を用いて遠隔指導を行っている。大学院では院生が東京校舎のみだが、教員が学部の授業や会議等で大多喜キャンパス出向く場合もスカイプ等の遠隔指導を導入し、教員の負担軽減をはかる。研究科の科目ではオムニバス方式を採用していることや、共通科目の担当は 2 校地を往来する看護の教員は担当していないことも、過度な負担をかからないように配慮されている。教授会については大多喜キャンパスと東京校舎で隔月に開催されるが、教員の移動の負担を考慮し、テレビ会議を実施している。その他の委員会においてもメンバーが 2 校地に分かれる場合には、テレビ会議やメール会議など活用している。大学院開設後は、これまで以上に会議等の効率をはかり、遠隔授業や会議が円滑に運用できるよう、教育環境を整備し、教育指導の時間や研究活動の時間がより確保できるように取り組んでいく。

以上の内容について、「5. 教員組織の編成の考え方及び特色 (3) 2 校地において教育を行う教員の勤務状況」のところに、追加する。

(3) 2校地において教育を行う教員の勤務状況

本学は、本校である大多喜キャンパスと東京校舎の2校地を有しており、一部の教員は学部の授業で2校地を往来する。本研究科は東京校舎のみで授業が行われるため、学部の授業で2校地を往来する教員は、研究科の授業のためでも、2校地を往来することになる。このような学部と兼担し2校地を往来する教員の負担軽減のため、往来の時間や回数を最小限にするよう、大多喜キャンパスで学部の授業のある木曜日・金曜日を避けて大学院の授業を設定する。実習指導については、大学院教育に携らない学部教員との役割分担や臨床とのユニフィケーション体制を一層推進し、より互恵的に協力が得られるなどの体制の整備・充実をはかる、学部の卒業研究では、担当の学生と教員が直接面接指導ができない場合は適宜、スカイプやメール等を活用し遠隔指導を行っており、研究科の研究指導においても遠隔指導を行うなど、教育の質を担保するために教育環境のさらなる整備を行っていく。

(資料10 看護学研究科看護学専攻時間割、2校地で教育を行う教員別の時間割)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)、資料10

新	旧
<p>5. 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>3) 教員組織の特色</p> <p>.....</p> <p>4) <u>2校地において教育を行う教員の勤務状況</u></p> <p><u>本学は、本校である大多喜キャンパスと東京校舎の2校地を有しており、一部の教員は学部の授業で2校地を往来する。本研究科は東京校舎のみで授業が行われるため、学部の授業で2校地を往来する教員は、研究科の授業のためでも、2校地を往来することになる。このような学部と兼担し2校地を往来する教員の負担軽減のため、往来の時間や回数を最小限にするよう、大多喜キャンパスで学部の授業のある木曜日・金曜日を避けて大学院の授業を設定する。実習指導については、大学院教育に携らない学部教員との役割分担や臨床とのユニフィケーション体制を一層推進し、より互恵的に協力が得られるなどの体制の整備・充実をはかる、学部の卒業研究では、担当の学生と教員が直接面接指導ができない場合は適宜、スカイプやメール等を活用し遠隔指導を行っており、研究科の研究指導においても遠隔指導を行うなど、教育の質を担保するために教育環境のさらなる整備を行っていく。</u></p> <p><u>(資料10 看護学研究科看護学専攻時間割、2校地で教育を行う教員別の時間割)</u></p>	<p>5. 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>3) 教員組織の特色</p> <p>.....</p> <p>(追加)</p>

2校地において教育を行う教員の時間割表

1 市川光代 【前期】

		月	火	水	木	金	土			
1	老年看護方法論Ⅱ 15/15		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。		
2			看護学演習Ⅱ (文献講読)			基礎学習セミナー (大多喜) 10/15				
3					老年看護学概論 ◇《大多喜》8/8					
4				高齢者看護学特論 3/15						
5										
6				看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	高齢者看護学特論 3/15			看護学演習ⅠA (事例分析)						
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇：8回授業、※：オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合：担当授業回数/全授業回数								学部	大学院	
								講義科目	1単位※	4単位※
								演習科目	3単位※	4単位※
								実習科目	2単位※	—
								研究科目	2単位※	4単位※

1 市川光代 【後期】

		月	火	水	木	金	土			
1				看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		老年看護方法論Ⅰ 15/15		※老年看護学実習は3週間、東京校舎の近隣で実施。教員は助教2名を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。		
2				看護学演習ⅠB (フィールドワーク)						
3										
4										
5										
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)								
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)								
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇：8回授業、※：オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合：担当授業回数/全授業回数								学部	大学院	
								講義科目	1単位	—
								演習科目	2単位※	4単位※
								実習科目	3単位※	—
								研究科目	2単位※	4単位※

【看護学部】

老年看護学概論(看2)(1単位)◇	前期
老年看護方法論Ⅰ(看2)(1単位)	後期
老年看護方法論Ⅱ(看3)(2単位)	前期
老年看護学実習(看3)(3単位)※	後期
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期
卒業研究(看4)(4単位)※	通年

【大学院看護学研究科】

高齢者看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

5 後藤佳子 【前期】

		□ : 大学院(東京校舎)		■ : 学部(東京校舎)		■ : 学部《大多喜》																
	月	火	水	木	金	土																
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)			看護技術概論◇ 《大多喜》8/8		※基礎看護実習Ⅰでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、統括の役割。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)		看護学概論※ 《大多喜》15/15																		
3																						
4			看護技術特論 5/15																			
5																						
6			看護学演習ⅠA (事例分析)																			
7	看護技術特論 5/15		看護学演習ⅠA (事例分析)																			
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>4単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	2単位※	4単位※	演習科目	4単位※	8単位※	実習科目	3単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	2単位※	4単位※																				
演習科目	4単位※	8単位※																				
実習科目	3単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

5 後藤佳子 【後期】

		□ : 大学院(東京校舎)		■ : 学部(東京校舎)		■ : 学部《大多喜》																
	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				※基礎看護実習Ⅱでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、統括の役割。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		看護教育学◇ 《大多喜》8/8																	
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>1単位</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	1単位	—	演習科目	2単位※	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	1単位	—																				
演習科目	2単位※	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				
【看護学部】 看護学概論(看1)(2単位演習)※11コマ 前期 看護技術概論(看1)(1単位)◇ 前期 基礎看護実習Ⅰ(看1)(1単位)※ 前期 基礎看護実習Ⅱ(看2)(2単位)※ 後期 看護教育学(看4)(1単位)◇ 後期 総合看護実習(看4)(2単位)※ 後期 卒業研究(看4)(4単位演習)※ 通年		【大学院看護学研究科】 看護技術特論(M1・M2)※(2単位) 前期 基盤看護学演習ⅠA(M1)(2単位) 前期 基盤看護学演習ⅠB(M1)(2単位) 後期 基盤看護学演習Ⅱ(M1)(4単位) 通年 特別研究Ⅰ(M1)(4単位) 通年 特別研究Ⅱ(M2)(4単位) 通年																				

2校地において教育を行う教員の時間割表

7 篠原清夫 【前期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1	情報科学A:通年 《大多喜》15/15				保健統計演習 ※ 《大多喜》15/30		※卒業研究は、学生が東京キャンパスの場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。															
2	情報科学B:通年 《大多喜》15/15				基礎学習セミナー ※ 《大多喜》10/15																	
3			保健医療社会学 ◇ 8/8																			
4																						
5	社会学 《大多喜》15/15																					
6																						
7																						
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>3単位</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>5単位</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	3単位	—	演習科目	5単位	—	実習科目	—	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	3単位	—																				
演習科目	5単位	—																				
実習科目	—	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

7 篠原清夫 【後期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1	情報科学A:通年 《大多喜》15/15		統計学 《大多喜》15/15		保健医療福祉連携 特論 7/15		※卒業研究は、学生が東京キャンパスの場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。															
2	情報科学B:通年 《大多喜》15/15		保健医療福祉論 ※通年 《大多喜》5/15		看護研究方法論Ⅱ (量的・質的研究)8/15																	
3																						
4																						
5																						
6				保健医療福祉連携 特論 7/15																		
7				看護研究方法論Ⅱ (量的・質的研																		
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>3単位</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>4単位</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	3単位	8単位※	演習科目	4単位	—	実習科目	—	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	3単位	8単位※																				
演習科目	4単位	—																				
実習科目	—	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】	【大学院看護学研究科】
社会学(看1)(2単位) 前期	保健医療福祉連携特論(M1)※(2単位) 後期
情報科学A(看1)(2単位演習) 通年	看護研究方法論Ⅱ(M1)(2単位)※ 後期
情報科学B(看1)(2単位演習) 通年	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)
統計学(看1)(2単位) 後期	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)
保健統計演習(看2)(2単位)※15コマ 前期	
保健医療福祉論(看2)(2単位)※5コマ 通年	
保健医療社会学(看3)(1単位)◇ 前期	
卒業研究(看4)(4単位)※ 通年	

2校地において教育を行う教員の時間割表

9 鈴木美和 【前期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)		家族看護学 《大多喜》 8/8																		
3																						
4			看護教育学特論 15/15																			
5																						
6			看護学演習ⅠA (事例分析)																			
7	看護教育学特論 15/15		看護学演習ⅠA (事例分析)																			
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>2単位</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>—</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	2単位	4単位※	演習科目	—	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	2単位	4単位※																				
演習科目	—	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

9 鈴木美和 【後期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	対象別支援技術論 ※ 10/30			※在宅看護学実習は2週間、東京校舎の近隣で実施。教員は助教2名を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス中心。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)																			
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	2単位※	—	演習科目	2単位※	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	2単位※	—																				
演習科目	2単位※	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
家族看護学(看2)(1単位)◇	前期	看護教育学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
在宅看護論(看2)(2単位演習)	後期	基盤看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
在宅看護実習(看3)(2単位)	後期	基盤看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
対象別支援技術論(看3)(2単位)※	前期	基盤看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

14 今野玲子 【前期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部(大多喜)

	月	火	水	木	金	土																
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※基礎看護実習Ⅰでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、成人領域からの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
3	成人看護方法論Ⅱ 《大多喜》7/15																					
4			成人看護学特論 2/15																			
5																						
6			看護学演習ⅠA (事例分析)																			
7	成人看護学特論		看護学演習ⅠA (事例分析)																			
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>1単位</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>—</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	1単位	4単位※	演習科目	—	8単位※	実習科目	3単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	1単位	4単位※																				
演習科目	—	8単位※																				
実習科目	3単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

14 今野玲子 【後期】

□ : 大学院(東京校舎) ■ : 学部(東京校舎) ■ : 学部(大多喜)

	月	火	水	木	金	土																
1	看護研究の基礎 15/15		看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				※基礎看護実習Ⅱでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、成人領域からの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2	成人看護方法論Ⅰ ※ 4/15		看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	成人看護学概論◇ ※ 《大多喜》5/8																		
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	3単位※	—	演習科目	2単位	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	3単位※	—																				
演習科目	2単位	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】	【大学院看護学研究科】
成人看護学概論(看1)(1単位)◇※4コマ	成人看護学特論(M1・M2)※(2単位)
基礎看護実習Ⅰ(看1)(1単位)※	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)
基礎看護実習Ⅱ(看2)(2単位)※	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)
成人看護方法論Ⅰ(看2)(2単位)※4コマ	実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)
成人看護方法論Ⅱ(看2)(2単位)※7コマ	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)
看護研究の基礎(看2)(2単位)	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)
総合看護実習(看4)(2単位)※	
卒業研究(看4)(4単位)※	

2校地において教育を行う教員の時間割表

15 松崎敦子 【前期】

		□ : 大学院(東京校舎)		■ : 学部(東京校舎)		■ : 学部《大多喜》																
	月	火	水	木	金	土																
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)		小児看護学方法論Ⅱ 13/15			※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
3				小児看護学概論◇ 《大多喜》8/8																		
4			成育看護学特論 6/15																			
5																						
6			看護学演習ⅠA (事例分析)																			
7	成育看護学特論		看護学演習ⅠA (事例分析)																			
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> <tr> <td>講義科目</td> <td>3単位</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>—</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </table>		学部	大学院	講義科目	3単位	4単位※	演習科目	—	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	3単位	4単位※																				
演習科目	—	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

15 松崎敦子 【後期】

		□ : 大学院(東京校舎)		■ : 学部(東京校舎)		■ : 学部《大多喜》																
	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	小児看護学方法論Ⅰ 13/15			※小児看護学実習は2週間、東京校舎の近隣で実施。教授1助教1を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス中心。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)																			
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇: 8回授業、※: オムニバス又は共同科目。 ・講義科目の担当割合: 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> <tr> <td>講義科目</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>1単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </table>		学部	大学院	講義科目	—	—	演習科目	1単位※	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	—	—																				
演習科目	1単位※	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
小児看護学概論(看2)(1単位)	前期	成育看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
小児看護学方法論Ⅰ(看2)(1単位)	後期	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
小児看護学方法論Ⅱ(看3)(2単位)	前期	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
小児看護学実習(看3)(2単位)※	後期	実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

16 松本浩幸 【前期】

	月	火	水	木	金	土			
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は、学生が東京校舎の場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。		
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)			精神看護学概論◇ 《大多喜》8/8				
3	精神看護方法論Ⅱ 15/15								
4			地域看護学特論 2/15						
5									
6			看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	地域看護学特論 2/15		看護学演習ⅠA (事例分析)						
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇：8回授業、※：オムニバス又は共同科目。							学部	大学院	
							講義科目	5単位	2単位※
							演習科目	2単位※	4単位※
							実習科目	2単位※	—
							研究科目	2単位※	—

16 松本浩幸 【後期】

	月	火	水	木	金	土			
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	対象別支援技術論※ 4/30			※精神看護学実習は2週間、東京校舎近隣で実施。助教1を含む2名体制、オリエンテーションとラウンド、カンファレンスの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。		
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)						
3	精神看護方法論Ⅰ◇ 8/8								
4									
5									
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)							
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)							
・大学院の授業は全て東京校舎で、学部は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇：8回授業、※：オムニバス又は共同科目。							学部	大学院	
							講義科目	2単位	—
							演習科目	2単位※	4単位※
							実習科目	2単位※	—
							研究科目	2単位※	—
【看護学部】 精神看護学概論(看2)(1単位)◇ 前期 精神看護方法論Ⅰ(看2)(1単位)◇ 後期 精神看護方法論Ⅱ(看3)(2単位) 前期 精神看護実習(看3)(2単位)※ 後期 総合看護実習(看4)(2単位)※ 後期 卒業研究(看4)(4単位)※ 通年			【大学院看護学研究科】 地域看護学特論(M1・M2)※(2単位) 前期 実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位) 前期 実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位) 後期 特別研究Ⅰ(M1)(4単位) 通年 特別研究Ⅱ(M2)(4単位) 通年						

(改善事項) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

【教員組織等】

5. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

ご指摘頂いたように、教授 12 名のうち、完成年度の令和 2 年度末に 8 名、翌年の令和 3 年度末に 0 名が 65 歳の定年を超える。

本研究科の教育研究活動の継続性や活性化を図るため、完成年度以降の教員補充にあたって、年齢バランス及び各分野の専門性の確保及び継承を十分に配慮する。具体的には、令和 4 年度に准教授 2 名 (50～59 歳代) 及び講師 1 名 (40～49 歳代) を内部昇格又は外部から補充する予定である。

本学の「高齢者の採用に関する内規」により、最長で満 78 歳に達した年度末までは就業可能であるため、これに該当する 3 名が令和 4 年度で退職となる予定である。しかしそれ以降、定年が 65 歳であり、若手を育成することも重要であるため、65 歳を超える教員については、教育の質を担保しつつ段階的に定年退職を進め、内部昇格や外部採用による教員の編成を図っていく。

	40から49歳	50から59歳	60から65歳	66から70歳	71から75歳	76から78歳	合計	備考
令和2	准教授1	教授2 准教授3	教授2	教授2	教授4	教授2	16名	
令和3		教授2 准教授4	教授2	教授2	教授4	教授2	16名	
令和4	講師1 (補充1)	教授1 准教授6 (補充2)	教授3	教授2	教授3		16名	退職3名 補充3名
令和5	講師1	教授1 准教授6	教授3		教授5		16名	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	5. 教員組織の編成の考え方及び特色
2) 専任教員の年齢構成と定年規定の扱い	2) 専任教員の年齢構成と定年規定の扱い
研究科の完成年度において規程に定める定年	研究科の完成年度において規程に定める定年

<p>(65歳)を超え、「三育学院大学高齢者の採用に関する内規」により78歳まで延長する教員が8名を配置する結果となっている。</p> <p><u>本研究科の教育研究活動の継続性や活性化を図るため、完成年度以降の教員補充にあたって、年齢バランス及び各分野の専門性の確保及び継承を十分に配慮する。具体的には、令和4年度に准教授2名(50～59歳代)及び講師1名(40～49歳代)を内部昇格又は外部から補充する予定である。</u></p> <p><u>本学の「高齢者の採用に関する内規」により、最長で満78歳に達した年度末までは就業可能であるため、これに該当する3名が令和4年度で退職となる予定である。しかしそれ以降、定年が65歳であり、若手を育成することも重要であるため、65歳を超える教員については、教育の質を担保しつつ段階的に定年退職を進め、内部昇格や外部採用による教員の編成を図っていく。</u></p>	<p>(65歳)を超え、「三育学院大学高齢者の採用に関する内規」により78歳まで延長する教員が8名を配置する結果となっている。</p> <p>(追記)</p>
--	---